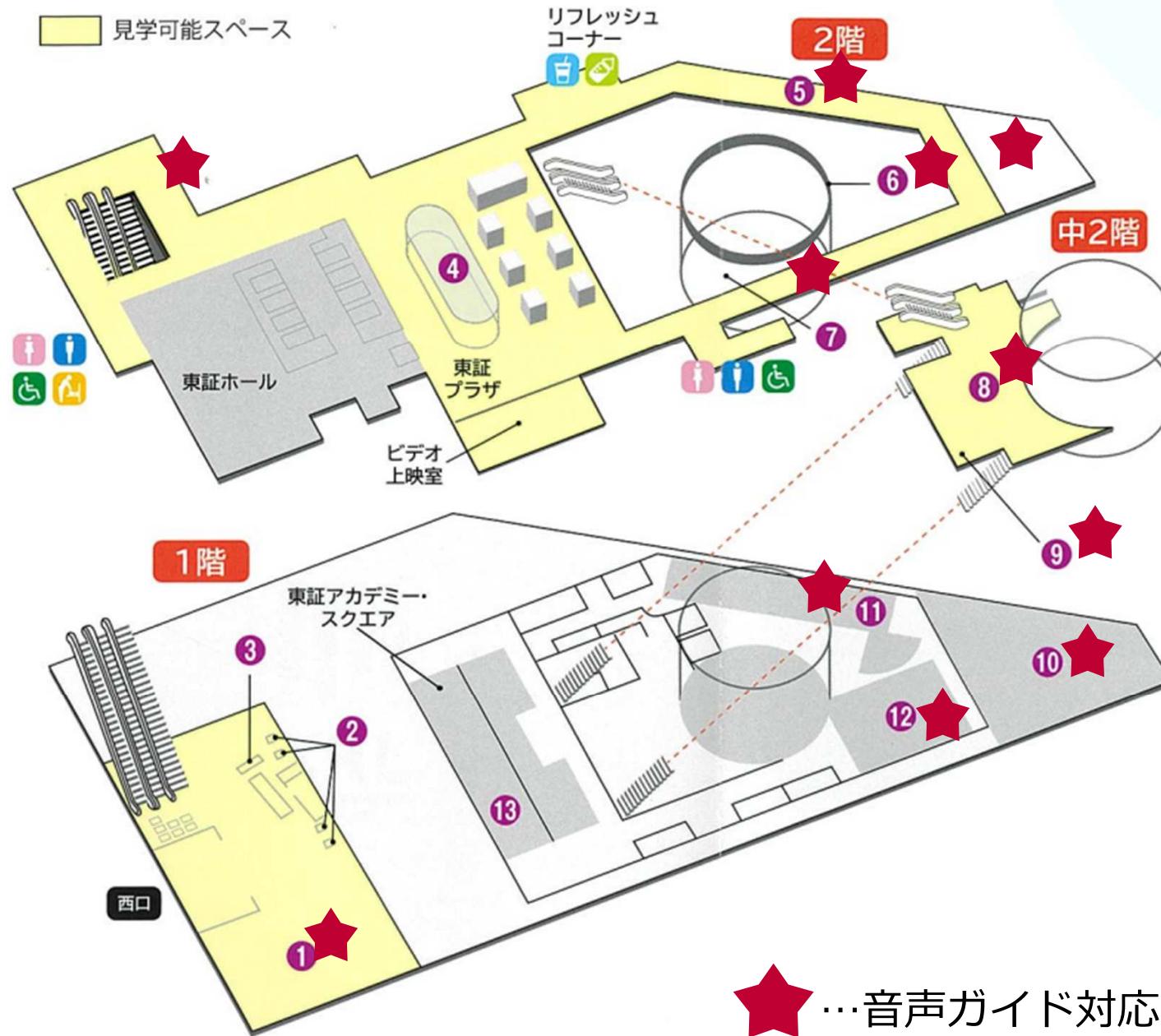


東証Arrows バイリンガル案内

日本語・中国語(繁体字)
中文 (繁體字) · 日文

館内地図



1階部分

証券史料ホール（1）



明治・大正期

証券史料ホールでは、日本の証券市場のあゆみと東京証券取引所の歴史を裏付ける資料が、明治・大正・昭和と時代を追って展示されています。

明治時代になると、政府は近代的な国家を目指して次々と国の仕組みを改革しました。証券市場の開設もその一つです。

こちらには、当時様々な目的で発行された公債、東京株式取引所の開業当時の様子を詳しく表した絵巻物、国内初の上場会社の一つである東京株式取引所の株券、仲買人が着用していた半纏や今の入館証にあたる入場鑑札など、当時実際に使用されていたものを展示しています。

明治、大正時期

證券博物館展示着明治、大正、昭和時代，包括東京證券交易所歷史在內的日本證券市場的歷史資料。明治時期，政府以現代化國家為目標，接連不斷地進行了國家體制改革。證券市場的開設也在其中。

這裡展示了很多當時實際使用過的物品。如當時以各種目的而發行的政府債券、詳細展現了當時東京股票交易所情況的畫卷、日本國內第一家上市公司之一的東京股票交易所的股票、經紀人穿過的短上衣和相當於現在入館證的入場許可牌等。

証券史料ホール (2)



株券

こちらには、2009年の株券電子化により今ではもう使われることのなくなった株券のコレクションが収蔵されています。台紙に印刷されている模様をご覧ください。昔の株券には、企業の建物やロゴマーク、事業を表すイラストなどがデザインされたものも多く、株券のコレクターも存在します。「株券に見る今昔」ではパネルを引き出して100点を超える株券のコレクションをじっくりとご覧いただけます。

股票

這裡收藏着2009年股票電子化后，現在已經不再使用的股票珍藏品。請觀看票券上印刷着的圖案。以前的股票上設計了企業建築物、商標以及很多顯示該公司業務的插圖等，當時的股票至今仍然是收藏的對象。“股票上看今昔”，我們可以拉出顯示面板，仔細觀看100個以上的股票收藏品。

証券史料ホール (3)



戦中・戦後

満州事変以降、15年にも及ぶ戦争の時代に入った日本では経済も次第に自由を失っていきました。1943年には全国11か所に存在していた証券取引所はすべて統合され半官半民の日本証券取引所となり、終戦直前まで取引は続けられましたが、1945年8月から売買立会は停止、1947年に日本証券取引所は解散となります。一方で財閥解体により大量の株式が一般に再配分され、証券民主化運動と相俟って、株式所有の大衆化が急速に進展しました。そして1949年5月、東京証券取引所での取引再開が認めされました。

第二次世界大戦後の出来事については、二階の回廊にも写真を展示しておりますのでご覧ください。

戦争時期及戦後

九一八事變後，日本進入了長達15年的戰爭時代，經濟也逐漸失去了自由。1943年，日本全國11個證券交易所全部被合併，成為半官半民的日本證券交易所，這樣一直持續交易到臨近戰爭結束前，但在1945年8月開始停止交易，並在1947年日本證券交易所解散。另一方面，由於財閥的解體，大量的股份被再分配，加上證券民主化運動，股份持有大眾化迅猛發展。1949年5月，東京證券交易所被批准重新開始交易。

關於第二次世界大戰後發生的事情，請觀看二樓迴廊上展示的照片。

証券史料ホール (4)



コンピュータの導入

証券市場が再開された翌年の1950年、朝鮮戦争が勃発します。戦争特需で株式取引は大幅に増加し、手作業での事務処理が追いつかない状況となりました。そこでアメリカへの視察を経て1953年コンピュータを導入しました。

1974年には相場報道システムが稼働し、証券会社に直接株価を配信できるようになりました。またそれまで立会場内の黒板にチョークで書き込まれていた株価が電動式掲示板で表示されるようになりました。

1982年には売買業務もシステム化。

さらに1990年には立会場事務合理化システムが稼働し、一定数量以下の小口注文はオンラインによる発注が可能となり、その後の証券事務のシステム化を加速していくことになりました。

計算機的引入

證券市場重新開放交易的第二年，即1950年，朝鮮戰爭爆發。由於戰爭這一特殊需求，股票交易大幅增加，手工處理業務無法再跟上需求。於是通過去美國的視察學習，東京證券交易所在1953年引進了計算機。

1974年開始導入行情報道系統，可以直接向證券公司發送股價。此外，以往的股價是用粉筆書寫在交易會場內的黑板上，現在變成了在電動公告板上顯示股價。

1982年股票交易業務也實現了系統化。

1990年開始在股票交易場內引進事務合理化系統，一定數量以下的小額訂單可以在線訂購，之後，證券事務系統化也加速進行。

証券史料ホール (5)



旧建物

黒い模型は、東京株式取引所の建物です。長方形の市場館は1927年、円形の玄関が特徴的な本館は1931年に完成しました。ギリシャ式のこの建物は昭和初期の洋風建築の傑作とされ、兜町のシンボルとして親しまれました。

左側には株券売買立会場の模型があります。中には馬蹄型のポストと呼ばれる場所が14か所あり、ここに全国からの注文が集められました。この立会場は床がクッションフロア、天井はステンドグラスからの優しい光が入るようになっており、ここで働く証券マンにやさしい環境となっています。

舊建築物

黑色模型是東京股票交易所的建築。長方形的市場館於1927年完成，以圓形玄關為特徵的本館於1931年完成。希臘風格的該建築被認為是昭和初期西式建築的傑作，作為兜町的象徵而被人們所喜愛。

左邊是股票買賣交易場的模型。其中有14處被稱為馬蹄型交易台，這裡聚集了來自全國的訂單。該交易場的地板是緩衝地板，溫和的光線從天花板的彩色玻璃射入，這裡的環境對在這裡工作的證券人員很友好。

2階部分

3つの丸いプレート



この3つの丸いプレートは、左が「工業」、真ん中が「商業」、右が「農業」を表しています。

「工業」には歯車やハンマーが、「農業」には鎌や農作物が描かれていて分かりやすいのですが、真ん中の「商業」をご覧ください。羽の生えた蛇の絡みついたちょっと変わった杖がデザインされています。これで何故「商業」なのか分かりますか？

これはギリシャ神話に出てくる商業の神様「ヘルメス」、ローマ神話では「マーキュリー」が持っている杖なのです。

この3つのプレートは、東京証券取引所の一代前の建物に飾ってあったとても古くて貴重なものです。今の建物に1985年に建て替えたときに、ここに移設いたしました。

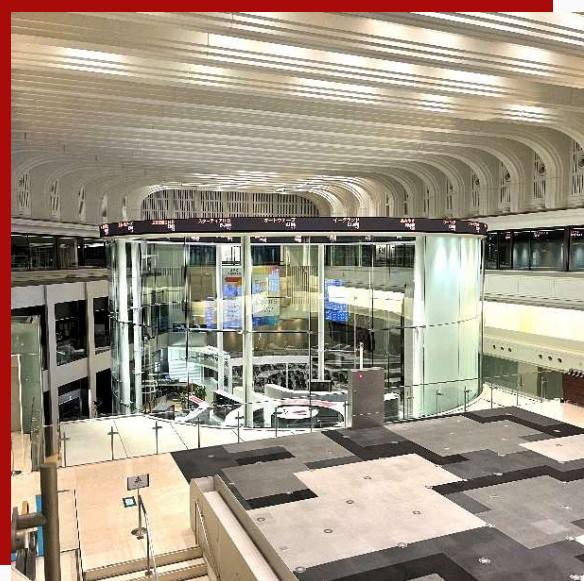
3個圓盤

這3個圓盤，左邊是“工業”，中間是“商業”，右邊是“農業”。

“工業”盤上畫著齒輪和鎚子，“農業”盤上畫著鎌刀和農作物，很容易理解，請觀察中間的“商業”盤。設計了長着翅膀的蛇纏繞着的有點奇怪的手杖。您知道為什麼這代表“商業”嗎？

這是希臘神話中出現的商業之神“赫爾墨斯”，即羅馬神話中“馬克里”所擁有的手杖。

這3個圓盤是裝飾在東京證券交易所前一代建築里的非常古老而珍貴的東西。1985年重建現在的建築物時，移設到了這裡。



今日の前に広がっているこの空間を東証アローズといいます。広さは約1800平方メートル、高さは約15メートルあります。1999年まで、ここは「株券売買立会場」と呼ばれていて、大勢の証券会社の方が特殊な手のサインを使って、手作業での株の売買を行っていました。

中央に見える大きなガラスの筒はマーケットセンターといって、もともとは株取引の情報を監視するために作られた施設です。ガラスの上の電光表示はチッカーと言って、たった今取引が成立した株価が次々と表示されています。

ガラス越しに見える二階建てのアパートの様な施設は、メディアセンター。そして手前に見えるモノトーンのカーペットの敷き詰められた中二階の部分はオープンプラットフォームと呼ばれる多目的スペースです。

東證Arrows

現在展現在我們眼前的這個空間叫做東證Arrows。面積約1800平方米，高約15米。中央的大玻璃筒叫做市場中心，原本是為了監視股票交易信息而建造的設施。玻璃上的光電顯示器叫做股票行市自動收錄器，剛剛成交的股票價格一個接一個地顯示在上面。

透過玻璃看到的像2層公寓一樣的設施是媒體中心。而前方所看到的鋪滿單色地毯的中二層部分是被稱為開放平台的多功能空間。

截至到1999年為止，這裡被稱為“股票交易大廳”，很多證券公司的人都會通過使用打手勢的特殊的方式進行手動股份買賣。



この2の写真は東証アローズの前身「株券売買立会場」時代のものです。

白黒写真は一代前の建物にあった立会場。中ほど左側に手のサインを使って売買している人が写っています。またこの時代は成立した株価を、その都度黒板にチョークで書いて表示していました。

左側のカラー写真は、今皆さんがいる、この建物の立会場時代のものです。一階部分はすっかり改裝されて様子が変わっていますが、天井付近は今も昔のままです。

多い時には2000人近い証券会社の人が集まり活気のある取引が行われていました。

手作業での売買は徐々にコンピュータ化され、1999年に100%コンピュータ取引となり、翌2000年5月に東証アローズとして生まれ変わりました。

今はもう証券会社の方は誰もいらっしゃいません。

交易場

這2張照片是東證Arrows的前身“股票交易大廳”的照片。黑白照片是前一代建築物里的交易大廳。中間左邊是正在用打手勢的方式進行股票交易的交易員。另外，這個時代每次都會用粉筆將成交的股價寫在黑板上。

左邊的彩色照片是大家所在的這個建築大樓里的交易大廳的照片。一樓在完全改裝后樣貌發生了變化，但天花板附近還是以前的老樣子。

人多的時候，近2000名證券公司的員工聚集在一起進行交易，場面氣氛非常活躍。

手動買賣逐漸計算機化，1999年實現了100%計算機交易，第二年即2000年5月東證Arrows應運而生。

現在證券公司的員工都不用來現場了。

マーケットセンター



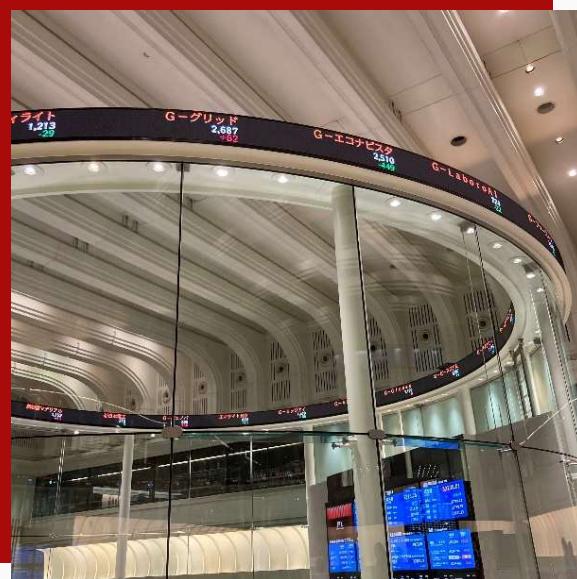
マーケットセンターは高さが10メートル、直径約17メートル、円周約50メートルの大きなガラスの円筒です。このようにガラス張りになっているのは市場の透明性や公正性を表しているからです。

もともと株取引の情報を監視する場所として作られたもので、新型コロナの前はこのガラスの中に30人以上の職員がいて、おかしな値動きはないか、異常な注文はないか…と取引の間中監視していました。

ただ、コロナ禍で「密はいけない」とされたため、館内の違う部屋に移動しましたが、以前と同じ体制で監視を続けています。でも実は1人か2人だけ今もこの中で作業をしている人がいるのですが見つかりましたか？今は貴重になった東証アローズの中で働く人の姿です。もし席を外していたらごめんなさい！

市場中心

市場中心是一個高10米，直徑約17米，圓周約50米的大玻璃圓筒。之所以玻璃化，是因為它體現了市場的透明性和公正性。原本是作為監視股票交易信息的場所而製作的，新冠疫情之前該玻璃圓筒中有30名以上的職員進行股票監控，在交易時間內監視有沒有奇怪的價格變動或異常的訂單。但是，由於疫情原因“不能聚集”，所以移動到了館內不同的工作室，但仍以與之前相同的體制繼續監視。但是您發現了嗎？實際上只有一兩個人現在也在這裡面工作。這是現在在東證Arrows中工作的人的珍貴身影。如果他們現在離開了座位的話那就很抱歉咯！



チッカーは表示が回る株価ボードです。回る速度は4段階に設定されていて、取引が多くなると速く回るようになります。

表示の1段目は銘柄名、2段目はたった今成立した株価、3段目は前日の終値との比較です。

株価は一株の値段ですが、東証での株の売買は100株単位…と決まっていますので、株を買うときには2段目に表示されている数字×100が必要な金額となります。また3段目の比較の色使いですが、世界のマーケットでは一般的に株価が上がったときに緑、下がったときに赤を使います。日本では昔から紅白をおめでたい色とする文化がありましたので、上がったときに赤を使ってきました。同じように、赤をおめでたい色とする、中国、台湾、韓国でも上がったときに赤で表示しています。

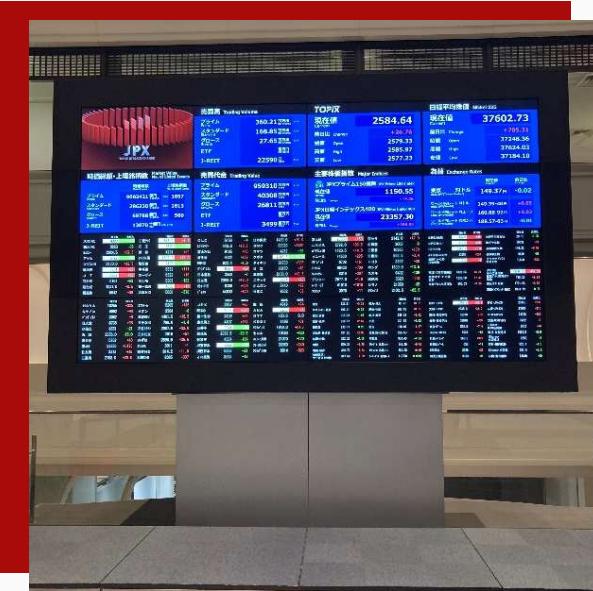
股票行市自動收錄器

股票行市自動收錄器是旋轉顯示股價的股價板。旋轉的速度設為4檔，交易活躍時就會旋轉得快。

顯示內容的第1段是股票名，第2段是剛剛成交的股價，第3段是與前一天收盤價的對比。

顯示股價是單股的價格，但是由於在東證的股票買賣是以100股為單位的，所以買個別股的金額應該是第2段顯示數字×100。另外，第3段對比使用的顏色，世界市場一般股價上升時使用綠色，下降時使用紅色，但，日本自古以來就有以紅白為喜慶顏色的文化，所以上升時使用紅色。同樣，中國、台灣、韓國也是把紅色作為喜慶的顏色，所以上升時用紅色表示。

マルチディスプレイ



マーケットセンターの中に見える大きな株価ボード：マルチディスプレイは70インチの大型モニターを16台組み合わせてある巨大なモニターで、東証での取引に関連する様々な情報を表示しているものです。

左上にJPXグループのロゴがあります。その下は、東証の3つの市場「プライム」「スタンダード」「グロース」それぞれの時価総額と上場銘柄数です。

その右側の「売買高」と「売買代金」は、今朝9時の取引開始から東証でどれくらいの取引が行われているかを表示しています。売買高は取引された株の数、売買代金はその金額です。

そしてその右側には、TOPIXや日経平均株価など、株価指数を表示しています。会社の株価を使って日本経済の動きを表しているのです。

下半分の画面は、取引時間中とそうでない時とでは表示が大きく変わります。取引時間中は黒い背景で大型株100銘柄の株価などを表示しています。取引時間外には青い画面に変わり、大阪取引所の先物市場や海外の市場の状況が表示されます。

多屏顯示器

市場中心裡可以看見一個大股價板：多屏顯示器是一個組合了16台70英寸大型顯示器的巨型顯示器，用來顯示東證交易相關的各種信息。

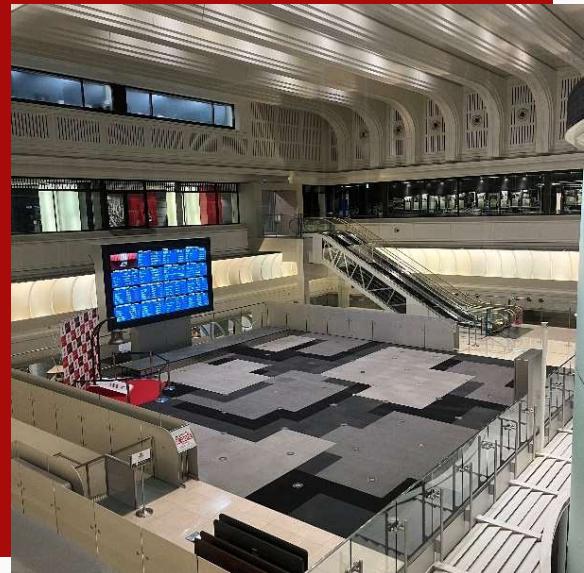
左上角是JPX集團的商標。請看下面。分別是東證3個市場 “優質” “標準” “成長” 的市值總額和上市品種數。

右邊的 “交易量” 和 “交易金額” 顯示了從今天早上9點交易開始后在東證進行了多少交易。交易量是被交易的股票數量，交易金額是該成交金額。

在其右側，顯示了TOPIX和日經平均股價等股價指數。用公司的股價來顯示日本經濟的動向。

下半部分的畫面中，交易時間和非交易時間的顯示會有很大的變化。交易時間以黑色為背景顯示100股大型股的股價等。非交易時間會變成藍色畫面，顯示大阪交易所的期貨市場和海外市場的情況。

オープンプラットフォーム



モノトーンのカーペットが敷き詰められている中二階のフロアはオープンプラットフォームと呼ばれる多目的スペースです。年末年始の「大納会」や「大發会」、そして年間を通じて行われている「新規上場セレモニー」という、企業が東証のマーケットに上場した初日の記念セレモニーもここで行われます。セレモニーの象徴でもある打鐘式に使われる鐘も今はここに常設されています。

オープンプラットフォームではマーケットセンターを間近で見上げてその迫力を体感することができます。またここにもマルチディスプレイが設置されていて、すぐそばで情報を確認することが出来ます。

売買が成立するたびに株価表示が点滅するのが分かりますか？リアルタイムでのマーケットの息づかいが感じられます。

開放平台

鋪着單色地毯的中二層是被稱為開放平台的多用途空間。年末年初的“大納會”和“大發會”，以及全年都會舉辦的，企業在東證市場上市第一天的慶祝儀式即“新上市儀式”也在這裡舉行。作為儀式象徵的敲鐘儀式上使用的鐘現在也常設在這裡。

在開放平台上可以近距離仰望市場中心，感受其魄力。另外，這裡也設置了多屏顯示器，可以在旁邊確認信息。

每次交易成交時股價顯示都會閃爍，這樣能在開放平台感受到實時市場的氛圍。



マルチディスプレイの左側にある古めかしい鐘は「上場の鐘」と呼ばれています。大納会や大發会など各種セレモニーの打鐘式で木槌を使って鳴らされていますが、特に新規上場セレモニーで使われる機会が多いことからこの名前で呼ばれるようになりました。

セレモニーでは5回鳴らすことが決まりとなっています。穀物などの農作物が豊作になることを願った「五穀豊穣」という言葉にあやかって、上場する会社や証券界が発展しますようにという願いが込められているのです。

この鐘は昭和3年に作られた電動式の鐘で、当時は「立会開始電鈴」という名前だったことが記録に残されています。昭和10年ごろまでこの鐘を合図に取引を開始していたのです。第二次大戦中の金属回収令も免れて今にその姿を残しています。

上市之鐘

多屏顯示器左側古色古香的鐘被稱為“上市之鐘”。在大納會和大發會等各種儀式的敲鐘儀式上使用木槌鳴響，特別是在新上市儀式上使用的機會比較多，所以被冠以此名。

儀式上規定要敲5次，來源於祈願穀物等農作物豐收的“五穀豐登”一詞，包含了希望上市公司和證券界發展越來越好的願望。

此鍾是1928年製作的電動鍾，從留下來的記錄得知它的名字叫做“交易開始電鈴”。到1936年左右為止，一直以這個鐘為信號開始交易。在第二次世界大戰中的金屬回收令中倖免了，所以現在留下了它的身影。

メディアセンター

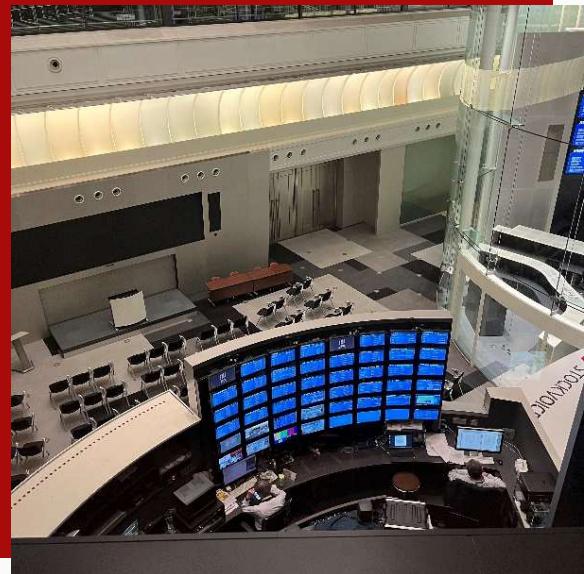


北側の回廊の下にある2階建てのアパートのような建物は、メディアセンターと
言って、それぞれの部屋に日本の主要なテレビ局・ラジオ局のサテライトスタジオ
が入っています。1階の一番右の明るく照明がついているところは、マーケット専
門チャンネルのストックボイスが入っていて、株取引が行われている間中、「東京
マーケットワイド」という番組を生放送しています。

媒體中心

北側回廊下面像2層公寓一樣的建築物，叫做媒體中心，每個房間都有日本主要電視台、廣播電台的衛星演播
室。1樓最右邊照明很明亮的區域有《股票之聲StockVoice》的廣播工作室，這是一個面向個人投資者的網
絡新聞媒體，會直播《東京市場通Tokyo Market Wide》節目。

コントロールルーム



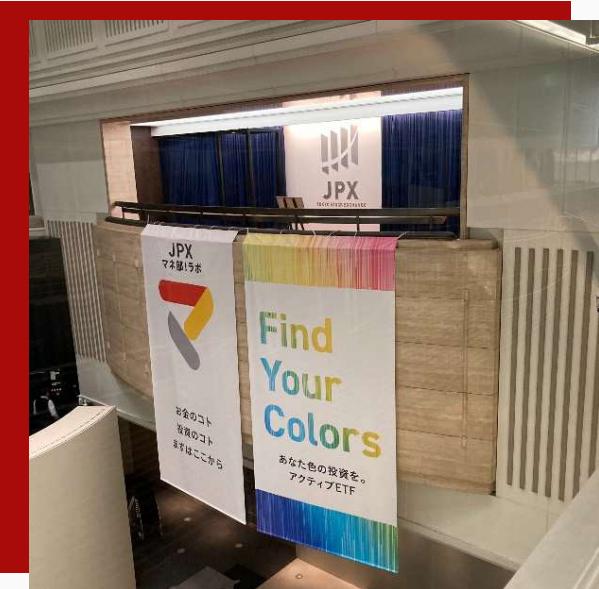
回廊から少し下を覗き込んでみてください。小さなモニターの集まっている秘密基地のような場所が見えませんか？

ここはコントロールルームといいます。東証アローズの中にはマルチディスプレイやチッカーなどの電光表示があります。その表示の指令はこのコントロールルームの中で行っているのです。背の高い方は覗き込んでみると中で働いている人の姿が見えるのではないでしょうか？今は貴重になった東証アローズの中で働く人の様子をここで確認することが出来ます。

控制室

請從迴廊往下看。有沒有看到顯示屏聚集的秘密基地一樣的地方？

這裡叫控制室。東證Arrows中有多屏顯示器和股票行市自動收錄器等光電顯示板。該顯示板的指令是在該控制室里進行的。個子高的人請往裡看看，有沒有看到在裡面工作的人的身影？在這裡可以看到在東證Arrows中工作的人的珍貴身影。



回廊の東側にあるこのバルコニーはVIPテラスといいます。

上場の鐘は以前はこのテラスに設置されていて、新規上場セレモニーの締めくくりとしてここで打鐘式を行っていました。東証のマーケットに会社を上場させた人だけが立ち入ることを許された特別な場所だったのです。しかしこのテラスも狭いスペースであることから、新型コロナを機に上場の鐘はオープンプラットフォームに下されました。

ビロードのカーテンがかけられ、赤い絨毯が敷き詰められた重厚な姿が当時を偲ばせています。

VIP露台

迴廊東側的這個陽台叫做VIP露台。上市之鐘以前就設置在這個陽台上，在這裡舉行敲鐘儀式，作為新上市儀式的結尾。這是一個只有讓公司在東證市場上市的人才能進入的特別場所。但由於這個露台空間狹小，所以以新冠肺炎為契機，上市之鐘被轉移到了開放平台上。掛着天鵝絨窗簾，鋪滿紅毯的厚重姿態讓人不禁懷念起當時的情形。

プレゼンテーションステージ



プレゼンテーションステージは、主に上場会社の方にお貸ししているスペースで、決算の発表や企業説明会などが行われています。100インチの大型ディスプレイが3面配置されているほか、プロジェクターや音響装置、照明設備も備えられていて100人前後収容できるため、東証が主催するセミナーやイベントなどにも使われます。東証アローズの1階フロアにあるスペースなので、ここから見上げたマーケットセンターは圧巻です。

演示台

演示台主要是借給上市公司，公布該企業財務業績和進行企業說明會等。3面配置了100英寸的大型顯示屏，還配備了投影儀、音響裝置、照明設備，可以容納100人左右，因此也可以用於東證主辦的研討會和各種活動等。由於是位於東證Arrows一樓的空間，所以從這裡仰望的市場中心是最具魅力的。



東口玄関は東京証券取引所のシンボルと言える場所。建物の写真は大抵この玄関の外から撮っています。そしてここは東証の金運スポットでもあるのです。実はこの玄関、厳密には南東の方角を向いている玄関なのです。バルコニーから下を覗いてみてください。1階の床に十二支の円盤があるのが分かりますか？少し見えづらいのですが、辰と巳（へび）の間、辰巳の方角を向いているのが分かります。風水では辰巳の方角に玄関を構えるとその家には良い運気が入ってくるとされているのです。

また天井をご覧ください。扇形のステンドグラスがはまっていますね。この玄関は扇型をしているのです。そしてその扇が東証アローズの方向に向かって広がっています。この未広がりの形もとても縁起が良いので、東口は東証の金運スポットとされているのです。

東口

東口玄關可以說是東京證券交易所的象徵。建築物的照片一般都是從這個玄關的外面拍的。而且這裡也是東證的財運景點。其實這個玄關，嚴格來說是面向東南方向的玄關。請從陽台往下看。您知道一樓有十二生肖的圓盤嗎？雖然有點看不太清楚，但可以看到是朝着辰和巳之間即東南方向。在風水中，在辰巳的方向設置玄關的話，家中會有好運。

請再看天花板。鑲嵌着扇形的彩色玻璃。天花板上的這個扇形的彩色玻璃朝着東證Arrows的方向蔓延。由於在未尾展開的形狀很吉利，所以東口也被認為是東證的財運景點。